

**文部科学省 中小企業イノベーション創出推進事業**  
**(S B I Rフェーズ3) 宇宙分野 (事業テーマ: 民間ロケットの開発・実証)**  
**のステージゲート審査結果について**

令和8年3月31日  
文部科学省  
一般社団法人低炭素投資促進機構

令和4年度補正予算「中小企業イノベーション創出推進事業(文部科学省分)」の宇宙分野の事業テーマ(民間ロケットの開発・実証)について、外部有識者から構成されるステージゲート審査委員会において、以下の通り、計2件の事業フェーズ3(注)への移行を決定しました。

(注) 事業テーマについては令和8年3月末までを事業フェーズ2としています。

○ 事業テーマ「民間ロケットの開発・実証」

- ・ステージゲート審査件数：3件
  - ・フェーズ3への移行件数：2件
  - ・審査方法：書面審査を実施し、その後プレゼンテーション審査を実施。  
(審査結果の概要は別添1、審査委員は別添2、審査結果の詳細は別添3の通り)
-

## 「民間ロケットの開発・実証」事業の概要とステージゲート審査結果

代表スタートアップ：インターステラテクノロジズ株式会社  
事業計画名：小型人工衛星 打上げロケット ZERO の技術開発・飛行実証  
フェーズ1 事業期間：～令和6年9月末 フェーズ1 交付額上限：20.0 億円  
フェーズ2 事業期間：～令和8年3月末 フェーズ2 交付額上限：46.3 億円  
フェーズ2 追加配分額：14.4 億円  
フェーズ3 事業期間：～令和10年3月末 フェーズ3 交付額上限：73.7 億円

代表スタートアップ：スペースワン株式会社  
事業計画名：増強型ロケットの開発、打上げ実証及び事業化  
フェーズ1 事業期間：～令和6年9月末 フェーズ1 交付額上限：3.2 億円  
フェーズ2 事業期間：～令和8年3月末 フェーズ2 交付額上限：12.3 億円  
フェーズ2 追加配分額：4.1 億円  
フェーズ3 事業期間：～令和10年3月末 フェーズ3 交付額上限：44.6 億円

※上記の掲載順は、応募申請順に基づきます。

※フェーズ3への移行が認められなかった将来宇宙輸送システム株式会社については、ステージゲート審査委員会において一定の技術力があると判断され、かつ、自ら事業継続の意思を示したことから、フェーズ2事業期間の延長が認められています。なお、本延長期間における事業計画の妥当性及び資金の追加配分の必要性を判断するため、別途審査を実施する予定です。

(別添2)

事業テーマ：民間ロケットの開発・実証  
ステージゲート審査委員会 委員名簿

(敬称略、五十音順)

(委員長)

上田 嘉紀 株式会社脱炭素化支援機構 取締役 専務執行役員

(副委員長)

松尾 亜紀子 慶應義塾大学 理工学部 機械工学科 教授

(委員)

笠原 次郎 名古屋大学 未来材料・システム研究所 システム創成部門 教授

津田 佳明 ANA ホールディングス株式会社 上席執行役員 未来創造室長

西村 竜彦 Frontier Innovations 株式会社 代表取締役社長 ジェネラルパートナー

姫野 武洋 東京大学 大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻 教授

(別添3)

文部科学省 中小企業イノベーション創出推進 (SBIR フェーズ3 基金) 事業  
宇宙分野 事業テーマ：民間ロケットの開発・実証  
におけるフェーズ2のステージゲート審査結果について

令和8年3月31日

文部科学省

一般社団法人 低炭素投資促進機構

令和4年度補正予算「中小企業イノベーション創出推進事業 (文部科学省分)」の事業テーマ (民間ロケットの開発・実証) において、今般、事業フェーズ2から事業フェーズ3へ移行するにあたりステージゲート審査を実施しました。ステージゲート審査における審査項目及び審査の結果等を本文書において報告します。

### 1. ステージゲート審査の目的

ステージゲート審査は、本事業に採択された補助対象事業者について、次フェーズへの移行の可否や次フェーズにおける交付上限額等の必要事項を判断、評価することを目的として実施します。なお、今回のステージゲート審査は、補助対象事業者の絞り込み (3社⇒2社) を行うことを前提として実施しています。

### 2. ステージゲート審査委員会

- 審査方法：書面審査を実施し、その後プレゼンテーション審査を実施。下記の【必須条件】を満たしつつ、「3. ステージゲート審査における審査項目」に照らして評定 (点数) の高い事業者から順に、最大2社の事業フェーズ3への移行を認める。
  - ✓ 基本設計が完了しているか。
  - ✓ TRL を2027年度中までにレベル7まで引き上げる計画となっているか。
- 書面審査日：令和8年2月24日～3月9日
- プレゼンテーション審査日：令和8年3月12日、13日、18日
- ステージゲート審査委員：(別添2)の通り

### 3. ステージゲート審査における審査項目

- フェーズ2での実施結果 (目標に対する成果、社会実装に向けた取組状況、進捗管理等)
- 目標、計画の妥当性 (プロジェクト目標の妥当性、プロジェクト計画及びスケジュールの妥当性、課題・リスクの識別、ビジネスモデルの優位性)
- 目標達成に向けた適切な実施体制の構築、展開
- 事業趣旨との整合性
- 必要経費の妥当性

#### 4. ステージゲート審査の結果

「2. ステージゲート審査委員会」の審査方法における【必須条件】を満たした3社のうち、評点（点数）の高い事業者から順に、2社（インターステラテクノロジズ株式会社及びスペースワン株式会社）の事業フェーズ3への移行が認められました。

また、事業フェーズ3への移行が認められなかった将来宇宙輸送システム株式会社については、【必須条件】を満たしており、かつ、自ら事業継続の意思を示したことから、フェーズ2事業期間の延長が認められています。なお、本延長期間における事業計画の妥当性及び資金の追加配分の必要性を判断するため、別途審査を実施する予定です。

##### （1） インターステラテクノロジズ株式会社

- 事業計画名：小型人工衛星 打上げロケット ZERO の技術開発・飛行実証
- 事業概要：小型ロケットの技術開発・飛行実証を行う民間単独では日本初となる観測ロケットの宇宙空間到達の実績で得られた知見を土台に、液化メタン燃料ロケットエンジンを新たに開発し、信頼性とコスト競争力を両立させた宇宙輸送サービスを実現させる。
- 審査結果：フェーズ3に移行
- 主な評価コメント（高く評価された点）：
  - ✓ 大手自動車メーカーとの業務提携等により、量産に向けた製造ノウハウを取り入れながらロケット打上げを日本国内の産業にしていく可能性を感じさせる。
  - ✓ 事業の成立性の前提となる、ZERO 初号機の位置づけも含め、研究開発段階で選択・選抜された要素技術・製造方法・運用方法等を、具体的な実証に統合する計画となっている。
  - ✓ 開発途中で発生した問題についても、しっかりと解決策が検討されており、不具合への対応や、リスク管理が十分に進められている。
  - ✓ パートナーを含め、スタートアップらしく人員規模の拡大を伴いながら一体感を醸成しつつも、謙虚にステークホルダーの声に耳を傾けている。

##### （2） 将来宇宙輸送システム株式会社

- 事業計画名：小型衛星打上げのための再使用型宇宙輸送システムの開発・実証
- 事業概要：事業パートナーとの連携体制を構築し、人工衛星の打上げを行うことができる再使用型の宇宙輸送システムの開発を見据え、デモンストレーション飛行を行い、補助事業後、商業化に必要な課題克服に取り組み、社会実装を加速させる。
- 審査結果：フェーズ2事業期間の延長
- 主な評価コメント（高く評価された点）：
  - ✓ 有人宇宙輸送・再使用型ロケットの実現は他社にはない特徴であり、かつ、日本としての宇宙産業を考えると魅力的な存在で、最終的なビジネスモデルの期待値が高い。

- ✓ アジャイル開発等の新規性あるチャレンジを継続しながら、基本設計まで完了させるとともに、独自性ある技術開発を進めている。
- ✓ コンセプト段階から基本設計完了まで、スタートアップらしい、類を見ないスピード感で技術開発を進めている。
- ✓ 新進スタートアップや大企業等、多岐にわたる連携先とともに開発を進める等、ビジネスパートナーを含めた体制構築ができつつある。

### (3) スペースワン株式会社

- 事業計画名：増強型ロケットの開発、打上げ実証及び事業化
- 事業概要：現行型カイロスロケット第3段をメタンエンジンを使用する液体ステージに置換、誘導制御系の改修、機体製造、射場設備の整備等、打上げ能力を増した増強型カイロスロケットの開発・飛行実証を行う。
- 審査結果：フェーズ3に移行
- 主な評価コメント（高く評価された点）：
  - ✓ 現行型カイロスロケットを3度打ち上げるなど、着実に自社の事業を進展させてきており、ロケット打上げの経験を積んでいる。
  - ✓ 増強型カイロスロケット機体システム・射場設備の両面で、概ね計画どおりに開発を進捗させている。
  - ✓ 現行型カイロスロケットの飛行中断が続いている中、増強型カイロスロケットの開発を並行して進めることについて、既存の株主等から応援されている点は前向きに捉えることができる。

※上記の掲載順は、応募申請順に基づきます。

## 5. 最後に

本事業は、令和9年度を目標に、国際競争力を持ったロケットの開発・飛行実証を行うスタートアップ企業を支援し、我が国の輸送分野におけるスタートアップの有する先端技術の社会実装の促進を目的として、令和5年度から支援が開始されました。宇宙輸送市場で勝ち残る意志と技術力を有する事業者を選抜し、集中的に支援するため、本事業においてはステージゲート審査を通じて段階的に補助対象事業者を絞り込む制度を採用しており、令和6年9月に実施したステージゲート審査で4社から3社へ、今回のステージゲート審査で3社から2社へと絞り込みを行いました。

フェーズ3への移行が決定したインターステラテクノロジズ株式会社及びスペースワン株式会社については、ロケットの開発を着実に進めて飛行実証に成功し、それぞれが開発するロケットの社会実装が進展することを期待しています。また、必須条件は満たしたものの他社との比較によりフェーズ3へ移行ができなかった将来宇宙輸送システム株式会社については、引き続きチャ

レンジを継続し、同社の目指す有人宇宙輸送・再使用型ロケットの構想が進展することを期待しています。

文部科学省としては、引き続き、本事業を通じて、我が国の宇宙産業の発展に係る革新的な技術開発を支援し、宇宙輸送分野における更なる社会実装に向けた取組を進めることで、我が国の宇宙市場の拡大へ貢献することといたします。

以 上